

## カラジャ人形

土人形 (標本番号H170216、高さ/44cm 幅/26cm 奥行/16cm) ブラジル

中牧 弘允 (なかまき ひろちか)

本館民族文化研究部

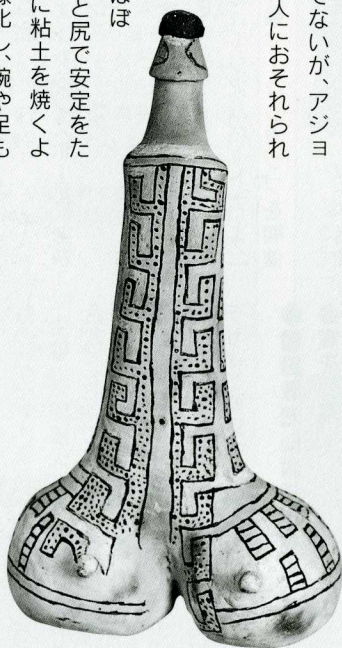
カラジャ人形はブラジル・アマゾンのア  
ラグアイア川流域にすむカラジャ人の女性  
によって製作される。カラジャはマクロ・ジ  
エ語族に属し、儀礼的に二分される集団―  
「大きな家」と「小さな家」と、それを仲介  
する「中道」とよばれる集団によって構成さ  
れている。民博所蔵の人形には、こうした社  
会構造を反映し、二つの顔と四本の手をも  
つ球状の像が一体ある。

表紙の人形はアジヨロマニとよばれる森  
に棲む妖怪をあらわしている。かつて村の  
男たちはアジヨロマニの仮面をつけて、言  
うことをきかない子どもたちをおどしたと  
いう話がブラジルの専門書にのっていた。  
本資料の情報カードには、悪戯をした子ど  
もたちはアジヨロマニに連れていかれると  
おどされるという記述がみられるが、まさ

にそれと符合する。しかし、森の穴のなかに  
棲み地震を起こすという情報カードの説明  
は、いろいろな文献にあたってみたが、検証す  
ることはできなかった。そのかわり、最近の  
こととして、ある呪術師がアジヨロマニを  
見て、「毒」(植物を調査したもの)をもって  
追い払ったというくだりが先述の本にあつ  
た。地震についてはさだかでないが、アジヨ  
ロマニは森の妖怪として村人におそれられ  
た存在だった。

ところで、カラジャの土  
人形はかつて粘土を乾燥さ  
せただけで、前から見るとほぼ

三角形であり、腕がなく、股と尻で安定をた  
もっていた。七〇年ほど前に粘土を焼くよ  
うになってから、形状も多様化し、腕や足も  
つき、動作も表現できるようになった。



かつてはもっぱら女の子の玩具としてつ  
くられた土人形が、焼き物となつてからは  
カラジャ人形として、一般のブラジル人に  
も販売されるようになった。独特のボディ・  
ペインティングがほどこされ、妊娠や出産、  
狩猟や漁撈などのテーマ性もあり、ひろく  
民芸品として愛好されている。